



写真：韓国岳山頂からの新燃岳と高千穂峰（撮影：令和2年8月14日）

「新燃岳」

噴火後10年

2011年、約300年ぶりに爆発的噴火を起こした新燃岳。火口に溶岩が溜まり、エメラルドグリーンの火口湖を横に登山していたなじみ深い山の急激な変貌に驚かされました。その後、2017年に6年ぶりの噴火。西側火口淵から溶岩があふれ出て冷え固まり、真っ黒になりました。

噴火後、多くの火山灰が降り、経済活動に大きな影響が出ました。また、噴石や溶岩流などから身を守るための減災教育などが進みました。一方、栄養の少ない火山性の土壌を好むミヤマキリシマが霧島山を美しく染め上げています。

韓国岳山頂から望む新燃岳の姿は見るたびに姿を変えます。噴煙・噴気の噴出場所・噴出量、冷え固まった溶岩の色、植生の変化など、登頂するたびにダイナミックな景色と共に、その多大な変化を目の当たりにします。火山の恵みを生かし、災害を減らす「火山との共生」を常に意識しながら、霧島をさらに魅力ある国立公園、ジオパークにしていきたいものです。

（文）えびのエコミュージアムセンター